

桐谷文雄教授、竹内正辰教授の退官記念号の刊行にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-07-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005774

桐谷文雄教授、竹内正辰教授の退官記念号の刊行にあたって

桐谷文雄教授、竹内正辰教授のお二人が停年退官されることになりました。

桐谷文雄教授は、亡くなられた望月勝海教授の後任として、昭和39年11月に文理学部教授として来任されました。御着任早々の昭和40年、文理学部改組により発足した新設理学部の学部長に推され、2期4年間学部創設期の重職を勤められました。また昭和43年から2年間静岡県地学会会長となられ地方地学界の育成に御尽力下さいました。

桐谷教授は長年電源開発株式会社の地質課長を勤められ、佐久間・御母衣など大ダムの建設に際し地質調査を担当せられ、新興の応用地質学分野の開拓者であります。本学においても応用地質学の講義を担当され、地質調査事業に活躍する多くの卒業生を育成されました。

御退官後も静岡市に定住される由承っておりますので、末長く私共に御指導と助言を賜りたいと念願しております。

竹内正辰教授は昭和23年に旧制静岡第一師範学校講師として来任以来、22年の長きにわたって本学に奉職せられました。この間昭和25年静岡大学発足により教育学部講師、昭和30年に助教授、昭和40年に教授に昇任せられ、また昭和41年より3年間は教育学部附属静岡中学校長を併任されました。

昭和41年に「Manganese Mineralization in the Epithermal Metallogenic Province of the Izu Peninsula, Japan」の論文により京都大学より博士号を受けられました。

伊豆半島のマンガン鉱床の御研究の他、静岡県下の金属鉱床、磁硫鉄鉱の白鉄鉱化に関する御研究など、主として金属鉱床学の分野で活躍され、また昭和41年より2年間静岡県地学会会長を勤められるなど、地学の普及と振興に尽されました。

今春待望の教育学部新校舎が完成しましたが、新研究室を御利用になる暇もなく退官されるのは誠に残念なことであります。竹内教授の当地学教室ならびに地方地学界に与えられた偉大な寄与に心から感謝し、今後も長く御健康で私共を御指導下さいますことを念願いたしております。

静岡大学地学教室は理学部・教育学部・教養部の三つの教室に所属する教官職員が打って一丸となって研究教育の活動を続けております。この体制は亡くなられた望月教授、佐々倉教授の時代に旧文理学部、教育学部地学教室の間で作られたもので、桐谷・竹内両教授御退官後も長くこのよき伝統を残して、 $1 + 1 + 1 = 5$ の運営を続けて参りたいと存じます。

又私共の念願とする理学部地学科の設立にむけての努力も、理学部を中心として地学教室全体で推進していく所存であります。

ここにささやかではありますが静岡大学地学教室研究報告（地学しずはた）の特別号を発刊し両教授御退官の記念といたしたいと存じます。

昭和45年4月

教養部教授

鯨島輝彦